

2019年1月28日付
鋼構造ジャーナル

広島県鉄構工業会

「次世代に向けた事業推進へ」

新年の門出を祝う

広島県鉄構工業会（理事長 山本泰徳・ステントス社長）は21日、広島市内の



山本理事長

ホテルニューヒロデンで新年互例会を開催した。当日は組合員のほか、広島県土木建築局の宮崎昌二建築技術部長、的場弘明同管轄課課長、広島大学の松尾彰名誉教授、広島工業大学工学部の清水斉教授、カナイ建

築構造事務所の南波篤志主任が来賓で出席した。

冒頭、山本理事長は「鉄構業界は好調が続いているが、気持ちを引き締めたい。若年層の求人難に対しては労働環境の改善など建設業界全体で取り組む必要がある。次の世代に向けた事業が実を結ぶことを望む」とあいさつした。

続いて、宮崎部長が昨年の豪雨被害について触れ

「今年は、創造的復興」としてインフラの強靱化を全力で推進する。さらに第四次産業革命や働き方改革への対応にも取り組む。皆様の高度な知見と経験を活かしてほしい」と述べた。

その後、松尾名誉教授の乾杯発声で歓談に入り、新年の門出を祝った。



新年互例会のようす